

【茂原市】

地域幸福度（Well-being）指標に関する分析
報告書

令和7年4月

1. はじめに

Well-being (ウェルビーイング) = 「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」

- 政府は、地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタルの力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市国家」を構想しています。
- 「心ゆたかな暮らし」(Well-being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)を実現し、地域で暮らす人々の心ゆたかな暮らし(Well-being)の向上と持続可能性の確保を目指しています。

地域幸福度(Well-being)指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を数値化・可視化する指標となり、偏差値化した「主観指標」「客観指標」の2つの指標から構成されています。

(1) 主観指標

- ・ ○アンケート回答者の主観(感じ方・考え方)をもとに、その人が感じる幸福感や、生活環境や人間関係の状況などを測定するための指標です。

主観(ウェルビーイング)評価指標 ～ 全50問

地域における幸福度・生活満足度(4)			
■ 現在、あなたはどの程度幸せですか？ ■ 現在、あなたの町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？		■ 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。 ■ 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う	
生活環境(16)		地域の人間関係(2)	自分らしい生き方(6)
医療・福祉(2) ■ 医療機関が充実している ■ 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	子育て(2) ■ 子育て支援・補助が手厚い ■ 子どもたちがいきいきと暮らせる	地域とのつながり(5) ■ 私は同じ町内に住む人々を信頼している ■ 地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである ■ 困ったときに相談できる人が身近にいる ■ 町内の人が困っていたら手助けするこのまに愛着を持っている	自己効力感(1) ■ 自分のことを好ましく感じる
買物・飲食(2) ■ 日常の買い物に全く不便がない ■ 飲食を楽しめる場所が充実している	初等・中等教育(2) ■ 教育環境(小中学校)が整っている ■ 通学しやすい場所に学校がある	都市景観(1) ■ 自慢できる都市景観がある	健康状態(2) ■ 身体的に健康な状態である ■ 精神的に健康な状態である
住宅環境(3) ■ 自宅には、心地よい居場所がある ■ 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている ■ 適度な費用で住居を確保できる	地域行政(2) ■ 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている ■ 公共施設は使い勝手良く便利である	事故・犯罪(2) ■ 防犯対策(交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等)が整っており、治安がよい ■ 歩道や信号が整備されていて安心である	文化・芸術(2) ■ 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい ■ 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
移動・交通(1) ■ 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる	デジタル生活(2) ■ 行政サービスのデジタル化が進んでいる ■ 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	自然景観(1) ■ 自慢できる自然景観がある	教育機会の豊かさ(1) ■ 学びたいことを学べる機会がある
遊び・娯楽(1) ■ 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	公共空間(2) ■ 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい ■ まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	自然の恵み(2) ■ 身近に自然を感じることができる ■ 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	雇用・所得(2) ■ やりたい仕事を見つけやすい ■ 適切な収入を得るための機会がある
		環境共生(1) ■ リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	事業創造(1) ■ 新たなことに挑戦・成長するための機会がある
		自然災害(1) ■ 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。	

【主観指標】の特徴

- 全 50 問を基本とするアンケートデータをもとにしている
- 「幸福感(Well-being)」を算出したもの

(2) 客観指標

○オープンデータ(統計や地図、既存の調査資料など、誰でも自由に活用可能なデータ)をもとに、生活環境や人間関係の状況などを測定するための指標です。

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカatalog

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

生活環境 (16)

医療・福祉 ■ 医療施設徒歩圏人口カバー率 ■ 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 人口あたり国保医療費 (-) ■ 人口あたり後期高齢者医療費 (-) ■ 特定健康診断受診率 ■ 福祉施設徒歩圏人口カバー率 ■ 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 人口あたり児童福祉施設数 ■ 人口あたり障害者施設数 ■ 人口あたり認知症サポーター・ヘルパー数	遊び・娯楽 ■ 人口あたり娯楽施設(映画館、劇場、スポーツ施設等)の事業所数	公共空間 ■ 公園緑地徒歩圏人口カバー率 ■ 人口あたり公園の面積 ■ 歩道設置率 ■ ウォーカブル指数	自然の恵み ■ 表層崩壊からの安全率 ■ 緑地へのアクセス度 ■ 水域へのアクセス度 ■ オートキャンプ場への立地
買物・飲食 ■ 商業施設徒歩圏人口カバー率 ■ 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-) ■ 可住地面積あたりの飲食店数 ■ 人口あたり飲食店数	子育て ■ 保育所まで1km未満の住宅割合 ■ 可住地面積あたり幼稚園数 ■ 施設あたり幼稚園児数 (-) ■ 人口あたり待機児童数 (-) ■ 歳出総額における教育費の構成比 ■ 合計特殊出生率	都市景観 ■ 都市景観指数	環境共生 ■ NOx平均値 (-) ■ PM2.5年平均値 (-) ■ ゴミのリサイクル率 ■ 人口あたり年間CO2排出量 (-) ■ 人口あたり再生エネルギー ■ 環境政策指数
住宅環境 ■ 住宅あたり延べ面積 ■ 平均価格(住宅地) (-) ■ 専用住宅1m2あたり家賃 (-) ■ 一戸建の持ち家の割合	初等・中等教育 ■ 可住地面積あたり小学校数 ■ 可住地面積あたり中学校数 ■ 可住地面積あたり高等学校数 ■ 施設あたり小学生数 (-) ■ 施設あたり中学生数 (-) ■ 施設あたり高校生数 (-)	自然景観 ■ 自然景観指数	自然災害 ■ 外水氾濫危険度 ■ 高潮危険度 ■ 土砂災害危険度 ■ 地震動危険度 ■ 津波危険度 ■ ハード対策 ■ 避難・救助 ■ 要配慮者支援 ■ 防災教育 ■ 防災まちづくり ■ 情報・デジタル防災
移動・交通 ■ 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 ■ 駅およびバス停留所平均人口密度 (-) ■ 人口あたり小型車走行キロ (-) ■ 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合 ■ 職場までの平均通勤時間 (-)	地域行政 ■ 人口あたり体育施設利用者数 ■ 人口あたり図書館常設図書数 ■ 人口あたり博物館入館者数 ■ 地域財政指数	事故・犯罪 ■ 人口あたり交通事故件数* (-) ■ 人口あたり刑法犯認知件数* (-) ■ 空家率 (-)	
	デジタル生活 ■ 自治体DX指数 ■ デジタル政策指数 ■ デジタル生活指数	自然の恵み ■ 食料生産ポテンシャル ■ 水供給ポテンシャル ■ 木材供給ポテンシャル ■ 炭素吸収量 ■ 蒸発散量 ■ 地下水涵養量 ■ 土壌流出防止量 ■ 窒素除去量 ■ リン酸除去量 ■ NO2吸収量 ■ SO2吸収量 ■ 洪水調整量	指数を構成するKPIはP14~15を参照 *各都道府県・市区町村HP等から取得 (-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカatalog

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

地域の人間関係 (2)

自分らしい生き方 (6)

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命(平均自立期間)(男性)
- 健康寿命(平均自立期間)(女性)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財(建造物)の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

【客観指標】の特徴

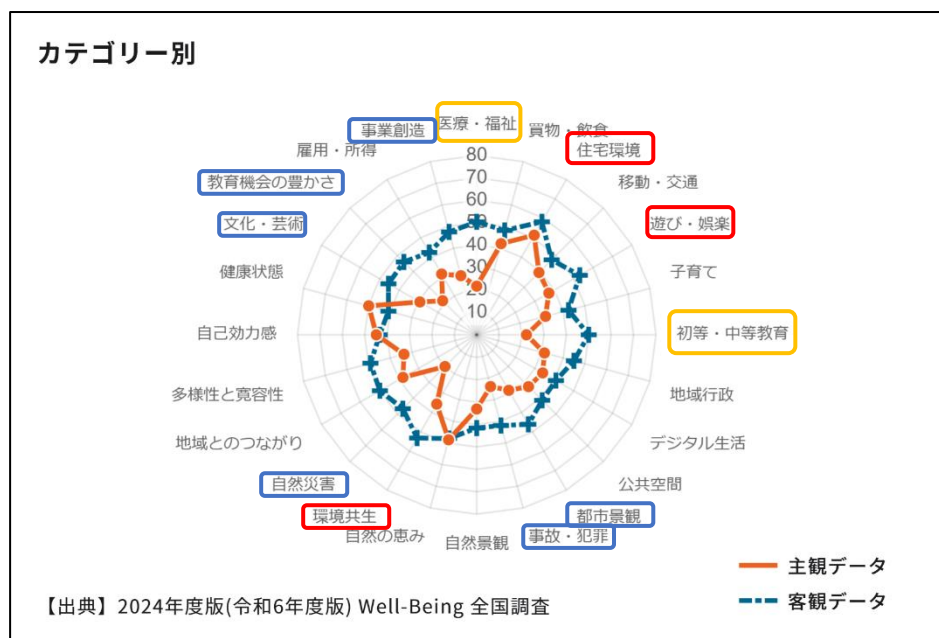
● 各種オープンデータをもとにしている

● 「暮らしやすさ」を測定したもの

2. 茂原市における Well-being 指標を活用した分析

(1) ダッシュボード

○全国 Well-being 調査(2024 年度版)に基づく主観データと客観データを見える化した結果は以下となります。



◇偏差値の高い項目:50 以上(赤)、偏差値の低い項目:30 以下(青)に色付け

生活環境	因子	医療・福祉	買い物・飲食	住宅環境	移動・交通	遊び・娯楽	子育て	初等・中等教育	地域行政
	主観データ	21.7	42.1	51.3	39.3	37.2	31.8	22.2	31.3
	客観データ	50.4	48.2	58.2	47.3	53.1	42.4	50.0	44.9
	因子	デジタル生活	公共空間	都市景観	事故・犯罪	自然景観	自然の恵み	環境共生	自然災害
地域の人間関係	主観データ	34.0	32.7	28.6	23.9	33.1	48.5	35.7	20.0
	客観データ	40.8	41.3	46.1	41.9	41.6	47.9	53.2	46.6
	因子	地域とのつながり	多様性と寛容性						
自分らしい生き方	主観データ	38.0	33.6						
	客観データ	49.9	49.1						
	因子	自己効力感	健康状態	文化・芸術	教育機会の豊かさ	雇用・所得	事業創造		
自分らしい生き方	主観データ	44.8	49.9	29.3	21.5	31.3	27.3		
	客観データ	43.3	40.8	45.5	46.0	42.4	47.5		

◇主観データ、客観データにおいて、それぞれの最も高い(赤)／低い項目(青)に色付け

偏差値の高い項目

【主観】住宅環境

【客観】住宅環境、遊び・娯楽、環境共生

偏差値の低い項目

【主観】都市景観、事故・犯罪、自然災害、文化・芸術、教育機会の豊かさ、事業創造

【客観】デジタル生活

主観と客観の
差が大きい項目

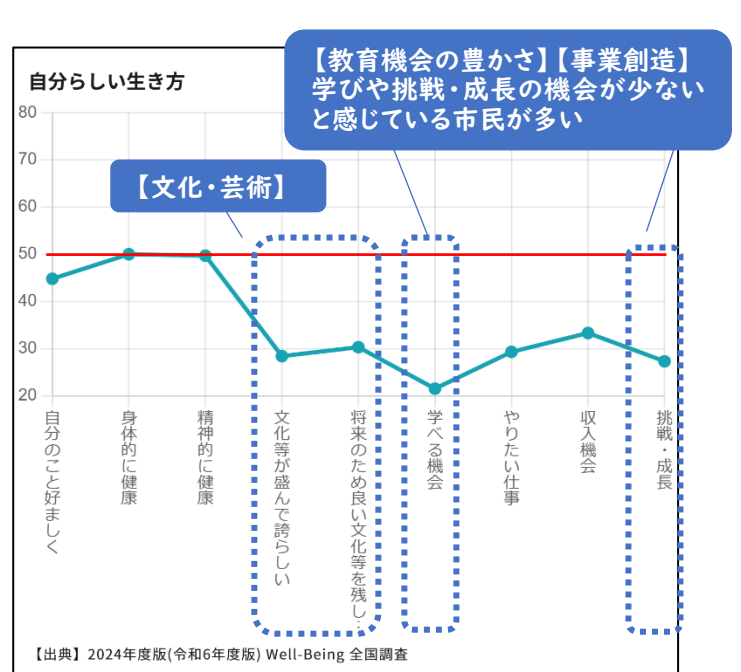
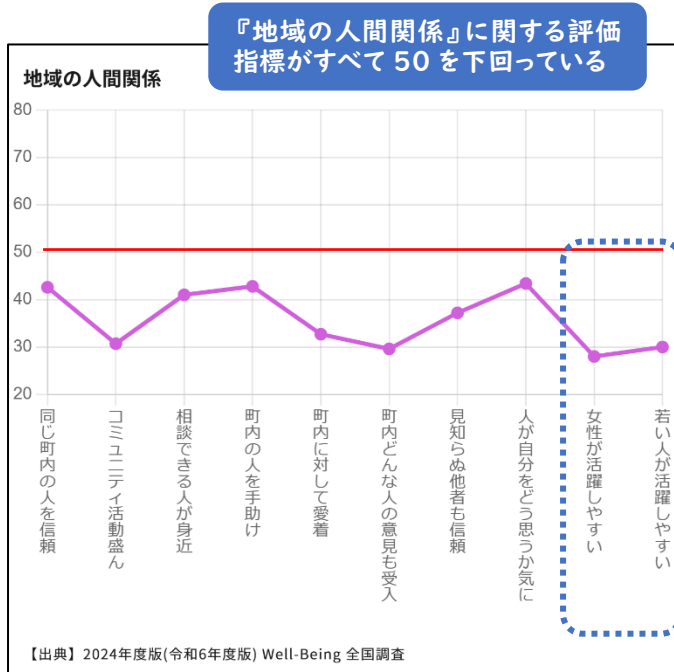
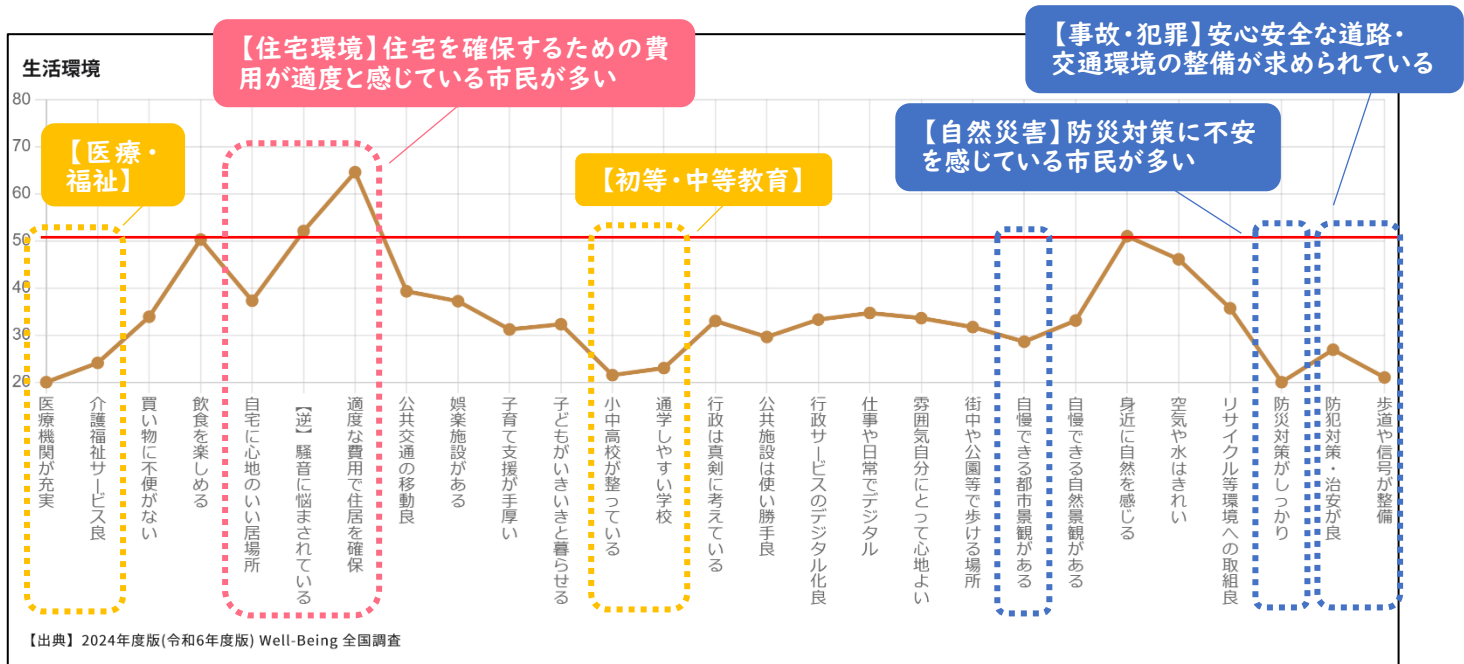
医療・福祉、初等・中等教育

(2) 主観データの詳細

【偏差値の高い項目】住宅環境

【偏差値の低い項目】都市景観、事故・犯罪、自然災害、文化・芸術、教育機会の豊かさ、事業創造

【客観との差が大きい項目】医療・福祉、初等・中等教育

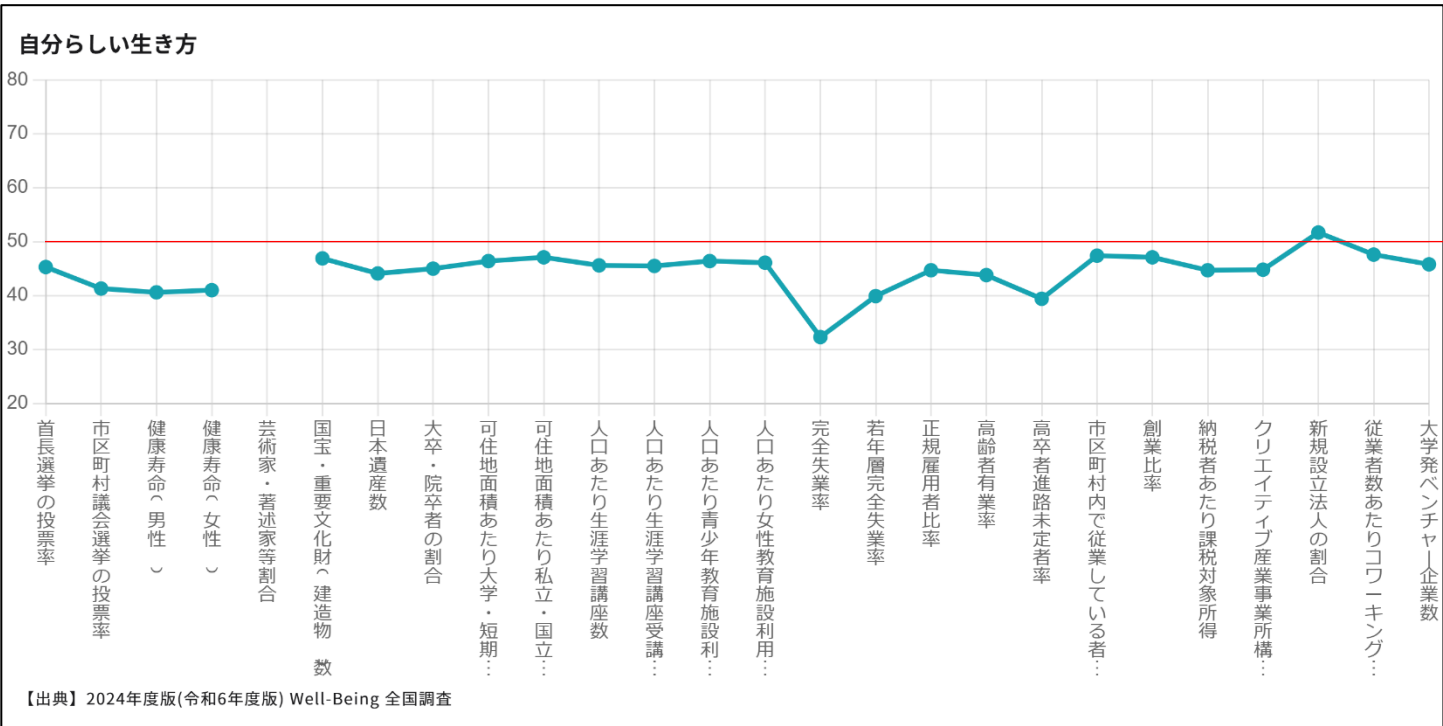
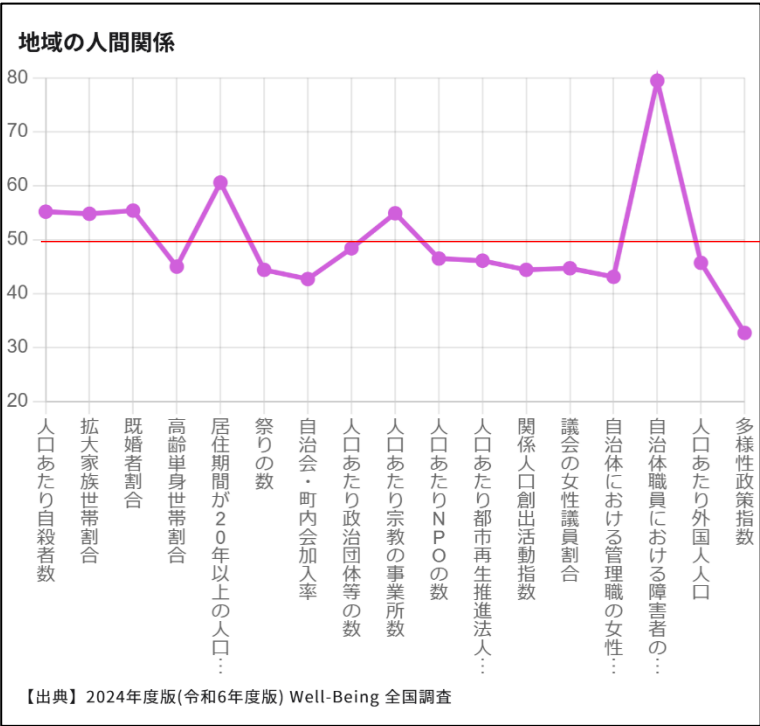
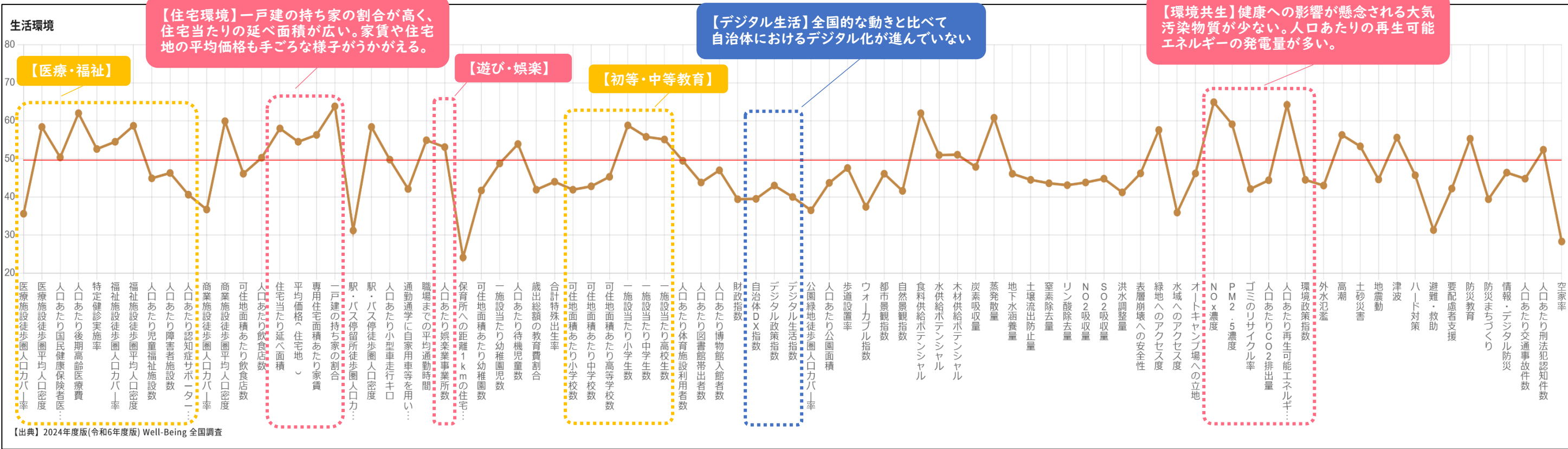


(3) 客観データの詳細

【偏差値の高い項目】住宅環境、遊び・娯楽、環境共生

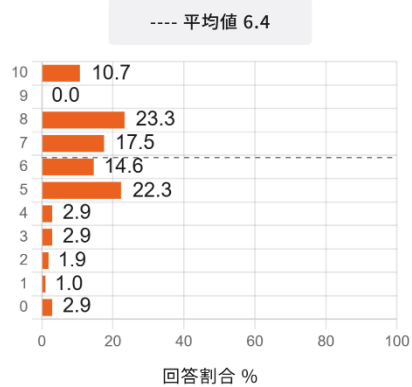
【偏差値の低い項目】デジタル生活

【客観との差が大きい項目】医療・福祉、初等・中等教育



(4) 幸福度・生活満足度

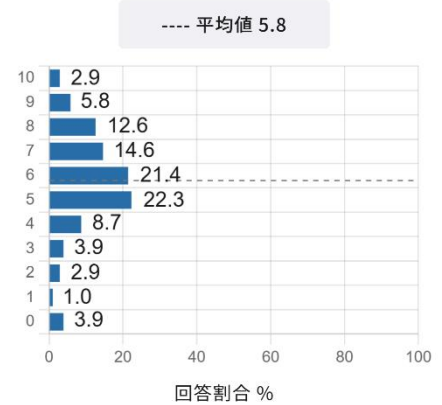
幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

【参考:千葉県全域】6.5

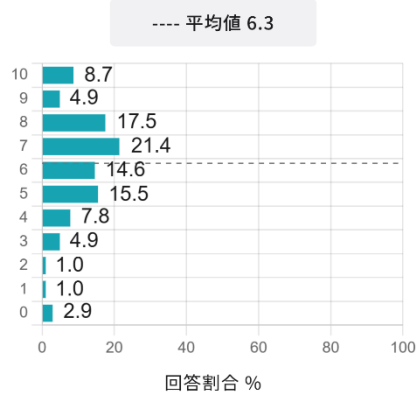
生活満足度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

【参考:千葉県全域】6.4

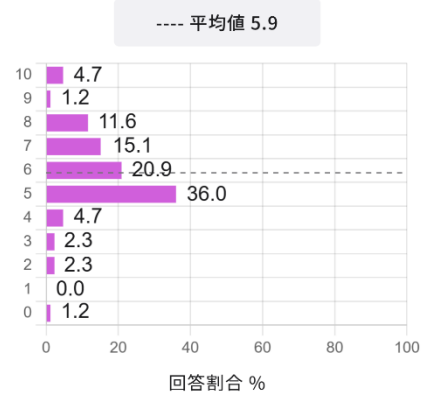
5年後の幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

【参考:千葉県全域】6.4

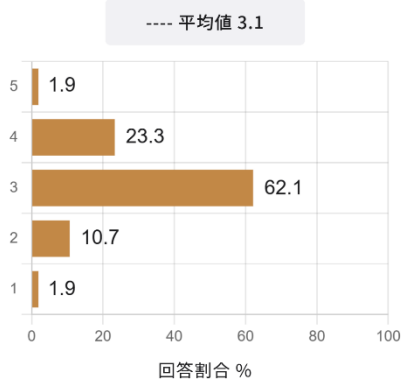
町内の幸福度



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

【参考:千葉県全域】6.2

周りも楽しい



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

【参考:千葉県全域】3.2

市民の幸福度に関する数値は千葉県全域の平均と比較して大きな差はみられませんが、生活満足度については“県平均 6.4”に対して、茂原市は“5.8”と低くなっています。

今後は、主観データによる「生活環境」の分野で偏差値の低い項目等を踏まえて取り組みを強化することで、市民の生活満足度の向上に努める必要があります。

(5) Well-being 指標を活用した分析結果

○主観・客観データを踏まえた茂原市の今後の取り組みの方向性について、以下のように分析します。

強み

■「住宅環境」の良さが評価されている

客観データから、本市では手ごろな家賃・住宅価格でゆとりのある広さを確保しやすい環境にある様子がうかがえ、主観データによる市民の評価も高くなっています。「住宅環境」は、住む場所を選択する上で重要なポイントであり、茂原市への移住・定住促進を図る上での強みとして、内外に向けた情報発信・PRの強化が有効と考えます。

■自然と生活が調和した環境づくりが進んでいる

客観データからは、環境汚染物質が少なく、生活環境が保全されている様子がうかがえます。また、本市は令和4年11月に「茂原市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指していますが、人口あたりの再生可能エネルギーの発電量も高くなっています。主観データにおいても、身近に自然を感じることができる点が評価されていることから、豊かな自然環境と快適な生活環境を強みとして、持続可能なまちづくりに努める必要があります。

弱み

■防災・防犯対策について不安を感じている市民が多い

全国的に災害が頻発化・激甚化するなか、本市では近年浸水による被害が頻発しており、水害対策が喫緊の課題となっています。主観データでは、「自然災害」の偏差値がすべての分野の中で最も低くなっており、住民が防災対策に関して不安を感じている様子がうかがえます。また、「事故・犯罪」の分野についても、特に道路・交通環境の整備に関するニーズが高い様子がうかがえます。安心安全に関するニーズは高まりをみせており、早急な対応が必要です。

■デジタルを活用した取り組みが進んでいない

客観データでは、自治体のデジタル化に関する取り組み状況等を示す指数の偏差値が低く、主観データにおいてもデジタル関連の評価指標の偏差値はすべて50を下回っています。国の方針では、地方創生の取り組みの加速化・深化に向けて、デジタル活用のさらなる促進を推奨しており、本市においても様々な分野においてデジタル技術を有効に活用したDX化の推進が求められています。

■若者・女性が活躍しやすい環境づくりが必要

主観データでは、「地域とのつながり」、「多様性と寛容性」から構成される『地域の人間関係』に関する評価指標がすべて50を下回っており、特に“女性が活躍しやすい”“若い人が活躍しやすい”の偏差値が低くなっています。令和6年12月に公表された「地方創生 2.0 の基本的考え方」では、「若者・女性にも選ばれる地方（＝楽しい地方）」がキーワードの一つとなっており、本市においても若者や女性のニーズに即した魅力ある地域づくりを推進することが重要です。

機会

■「医療・福祉」、「初等・中等教育」に関する市民ニーズの把握が必要

客観データの偏差値は比較的高い「医療・福祉」、「初等・中等教育」ですが、主観データはいずれも低く、大きなギャップがみられます。データでは測ることのできない住民ニーズを把握しながら、今後の対策を検討する必要があります。